

農村振興局長賞（捕獲鳥獣利活用部門（団体））

長野県内外各地のジビエ処理事業者から鹿原皮を買い取り、鹿革商品の開発・製造・販売の取組を開始。原皮の買取・独自商品開発を継続した結果、鹿革のペットフード化に成功し、持続的な鹿皮利用を実現したことによりジビエ事業における課題の一つである残渣処理の問題に貢献。

株式会社メルセン

なかがわ たけと

（代表取締役：中川 武人）

主な取組

長野県飯田市^{いいだ}

- 県内外のジビエ処理事業者から鹿原皮の買取を実施し、処理事業者の課題であった処理費削減に対し貢献することで、鳥獣対策に係る経費の削減や処理事業者の運営に貢献。
- 独自の剥皮方法と保存方法のマニュアルを作成し、解体者や処理事業者に提示することで、どの施設でも同レベルの原皮が得られるよう工夫するとともに、鹿革の専用機械の導入と独自工程の開発により、鹿革の品質向上と生産性向上を実現。
- 新たな鹿皮の利用方法としてペットフード製造業者や臨床獣医師の助言を受け鹿皮ガムを開発。購入頻度の高いペットフードを製造・販売することにより鹿皮の利用量が増加、これに伴い、鹿原皮の買取量も増加し、多くの処理事業者からの原皮買取を実現。
- 廃棄される鹿皮を地域資源として有効活用するジビエ事業の意義について、地元市民や学生を対象とした講演会等で発信することでジビエの需要・消費拡大に取り組むとともに、県内外からの問い合わせや製造工程の視察を積極的に受け入れ、技術の普及に貢献。

【ホンシュウジカ原皮の仕入れ枚数】

1,018枚（令和元年度）→3,755枚（令和5年度）